

多様な語りと対話による読みで自己を語る国語科授業づくり —第3学年「The Hiroshima Peace Rose」の朗読による授業実践を中心に—

羽島 彩加

1 はじめに

本校国語科の研究として、本稿では、第3学年において、多様な語りと対話による読みを通して自己を語ることに迫る授業を構想した。主体である「わたし」がどのように対象とつながり、どのように自己を語るかということに迫るために、対象と学習者をつなぐ読みと何に向けて自己を語るかに焦点化して検証を行う。

2 多様な語りと対話による読みで自己を語るとは

本研究では、朗読物語「The Hiroshima Peace Rose」を中心に置きながら、多様な語りを設定することで主体である「わたし」が何に対してどんなことを語るかということを考えて行った授業である。そのために、多様な語りとして、実話をもとにした物語の人物である田頭数蔵氏について、「映像資料として父を語る（田頭恵氏）」、「朗読として先生が語る（授業者）」、「作品について作者が語る（巢山ひろみ氏）」という語りを設定した。これらにより、「語りを聞いた主体が自己と対話する」、「語りを聞いた学習者同士で対話する」、「語った人と対話する」ことを想定した。この対話による読みにより、自己の平和観が語られることを狙う。

本研究の根底にある考え方は、ヒューマンライブラリーの手法で、「ヒューマンライブラリー（Human Library・Living Library,『生きている図書館』ともいう。以下HLと略す）の基本は、『生きた本』とその話を聞く『読者』との対話である」ということを用いる。この効果に関して、坪井（2020）は、『『本』の方の勇気ある自己開示が、『読者』の自己防衛を弱め自己開示の返報性（お返しをしたい気持ち）を引き出し、両者のココロのバリアを溶かして、開放的な対話空間を生み出す」と述べている。本研究では、学習者である「わたし」が自己を語ることを狙うため、実話をもとにして作られた「The Hiroshima Peace Rose」を中心に、多様な他者の語りを「本」として取り扱うことで、自分と向き合いながら「自己の平和観」を語ろうとする姿を目指す。

3 単元デザイン

(1) 単元について

本単元は、「本は友だち」という小単元で、実話をもとに書かれた「The Hiroshima Peace Rose」（巢山ひろみ）を教材として朗読を聞いて考えたことを伝え合う読書単元である。本教材は、原爆による心身の傷を負った青年がバラとバラを通じた人々と

の関わりによって心に光をともししていく物語である。「広島バラ園」の創業者田頭数蔵氏の実話を再現した朗読用の物語で、平和を願いながらバラを育て、バラを通して平和な心を伝えようとする生き方が、3年生児童にも分かりやすく語られた物語である。青年が戦争によって傷ついた心を感じるとともに、バラによって光を見出していく姿や、自分が救われたように、バラによって人々の心を癒したい思いを想像し、自分から周りに対して平和を広げていく思いや願いについて考えを交流するような活動を行う。また、朗読を聞く前に、この物語について「広島バラ園」の後継者である田頭恵氏から田頭数蔵氏を語る映像を用いたり、朗読を聞いて学習者同士の感想交流が深まった後に、この物語の作者である巢山ひろみ氏に対して、質問や意見を伝えたりする中で、多様な語りと対話の実現を目指す。これらの学習活動を行う中で、自己内対話にとどまらず、自分の考えを伝え、広げることを考えさせたい。そして、学習者自身の「自己の平和観」をもつきっかけになるような自己を語ることを狙う。

本学級の児童は、これまで物語の人物に対して読後に感じた思いを伝える学習を行ってきた。これらの学びにより、人物のおかれた状況や人物の行動の意味を考え、人物に共感したり、応援したりしながら自分の思いを表現することができるようになってきた。研究会では、初めて戦争教材を読む単元で「ちいちゃんのかげおくり」を取り扱った。第3学年では戦争の中で生きることの苦しさを読むことのアプローチは難しいと考えられることから、家族との関わりを学習者の読みの中心に置くことで、ちいちゃんの気持ちや行動に迫るような授業を行い、あまんきみこの戦争絵本の読み広げの単元を実施した。この中で、物語の人物である対象の思いとそれを読む自己の思いの違いを知り、戦争という経験のない状況を想像しながら自己の思いを表現することに至った。しかし、実話をもとにした戦争を取り扱った物語を読むことは初めてである。そこで、学びの発展として、「The Hiroshima Peace Rose」の朗読を中心に、多様な語りを設定し、対話を通して自分の読みを深め、「自己の平和観」について語ることがを構想した。なお、本授業は国語科と総合学習の合科単元として取り扱う。

本単元の指導にあたっては、これまでの国語科の「読むこと」や読書単元、総合学習の平和単元での学びを生かしながら朗読を聞いて感じたことを中心に、それぞれの考えを伝え合う表現を通して自己の平和観を見つめる学習になるような対話を重視した学習活動で授業を行う。自己内対話や他者との対話を通して、自分にできる平和に向かうための行動を見出し、「自己の平和観」を語り始められるような授業にしたい。

(2) 単元の目標

- 読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【知識及び技能】
- 朗読を聞いて、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。【思考力・判断力・表現力等】

- 朗読を聞き、思いや考えを伝え合おうとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 単元計画（全4時間）

第1次 「The Hiroshima Peace Rose」の朗読を聞いて自己を語る。…2（国語）

第2次 バラのさし木体験をして育てて自己を語る。…2（総合学習1，国語1）

(4) 本時の目標

- 朗読を聞いて理解したことに基づいて、自分の考えや感想をもつことができる。

(5) 本時の学習過程

学 習 活 動	指 導 の 意 図 と 手 だ て	評価の観点と方法
1 ヒロシマのバラを知る。（8分）	○ヒロシマには、特別な意味を込められたバラがあることを提示する。「広島バラ園」の創業者であり、バラの育種家の田頭数蔵さんについてたが紹介する。（田頭恵氏映像）	●「ヒロシマのバラ」に興味をもつことができる。
2 本時の学習課題をつかむ。（2分）	○本時の学習課題を提示する。 朗読を聞いて、考えたことや感じたことを伝え合おう。	
3 朗読を聞く。（15分）	○「The Hiroshima Peace Rose」を朗読する。	●朗読の世界に入り、聞くことができる。 ●考えの交流により、自己の読みを深めることができる。
4 感想を伝え合う。（10分）	○グループで感想を交流し、数蔵さんの思いやバラに込められた思い、戦争や平和に対する思いなどそれぞれの読後感があることに気づかせ、全体で追及する。	
5 作者と出会う。（10分）	○作者に出会い、質問や感想を伝える中で、自分の平和観を見つめさせる。	●自分の平和に対する思いを考えることができる。 ●振り返りを書く。
6 本時をまとめる。（5分）	○本時の学習で学んだことを振り返らせる。	

4 本時の授業の実際

ここでは、学習者の読みや思いが表出した、本時の学習活動4から5の感想を伝え合う活動の場面と作者との対話の実際を紹介する。

T1:今ぱっと思ひ浮かんだ自分の感想を教えてください。どうですか。あ、どうぞ。 C1:ええっと。原爆の被害にあった数蔵さんが近所のおじいさんにもらったバラで、平和を伝えようと思った想像力がすごいなあと思いました。 T2:ああ、なるほどね。バラはおじいさんの大切なものだもんね。ここから数蔵さんが想像したことがすごいなあって。この間に想像力が働くんだもんね。はい、どうぞ。 C2:ええっと、少しのお金で食べ物じゃなくて花を買っていることが、何かすごいと思った。 T3:そうだよ、このバラはいろいろな時のバラがあったけど、見るだけじゃなく、自分も買ってみたいって思ったんだよね。食べ物じゃなく植物。みんなだったらどうかな？お腹すいている時にアサガオの種、買うかな？ (C全:買わない。) T4:でも、買うんだよね。はい、どうぞ。 C3:ちょっとC1くんに似てて、ええっと、分けてもらったバラだけで、何か石灰を粉にしたりとか、一人で想像、夢をつくってそれを花にこめた。 T5:ああ、これは、想像力なんだよと。C4さん。

C4:わたしは、原爆の時に足首を触られた瞬間を覚えて、それで、みんなに、あの、原爆のことを大体みんなに知ってもらいたいとバラをつくったのがすごいと思った。

T6:そうだね。足をつかまれたことは、もう、忘れたことだね、本当はね。だけど、このバラがあったら、みんなは幸せになるかもしれないと思うところが、さっき C1くんも言ってくれたこの想像力だね。もしかしたらこのバラで幸せになる人が増えるかもしれない。C5さん。

C5:えっと。バラで、日本と世界を交流できるのがすごいと思った。

T7:ああ。そうだね。このバラで交流までする。世界の人と交流する。こうやって。これがすごいよね。何か、世界中の人とつながって、幸せな気持ちをつなげていく。はい、どうぞ。

C6:ぼくは、数蔵さんが100種類以上のバラをつくったのがすごいと思った。

T8:そうだね、はじめは1つのバラだったのを今やもう100種類以上ね。とってもたくさんつくったということは教えてもらったんだけど、正確な数まではごめんね。はい。

C7:ええっと。数蔵さんが厳しく、怖く、平和を、原爆のことを伝えるのではなく、目につくバラとかで平和が伝えられているところがいいと思った。

T9:そうだね。これ(原爆の時に足をつかまれたこと)は、怖いとか、厳しいこと。でもバラは違うよね。これ(バラ)で伝えること。なるほど、おもしろいね。

怖いことで伝えるんじゃないくて、バラのことで平和を伝えたい。じゃあ、最後、どうぞ。

C8:ええっと。バラで、広島とかの、広島でこういうことが起きたんだよっていうことを象徴している。

T10:うん。そうだね。これ(バラ)は、広島の前爆のことをバラで伝えたいということ象徴している。

T11:みんなは、先生の朗読を1回しか聞いてないけど、みんなも数蔵さんに負けないくらい想像力があるかもねしれないね。こんなにちょっと(時間)でたくさん出てきたよ。それではプリントを見てみましょう。お友達のを聞いてなるほどなと思ったこともあるかもしれませんが、じゃあ、自分はどんなふうに思ったかな、ここを書いてみましょう。

(感想を書く…3分)

T12:それでは、3分間は相談をするために、みんなにも本を配ります。班に1つ読み合いながら相談してください。3分間は、どんな感想をもったよ、ああ、ここだったねと相談してください。

(グループで交流する…3分)

T13:さあ、そろそろ時間に成っちゃうから何かは聞いてみたいんだけど。相談してこういうのも生まれたよというのがある人？

C9:人のを聞いてみて、何かちょっと、最後へんの写真とかも読んでみたいんだけど、全部、あの何か、つくったバラが全て同じじゃないから、しかも、何か、ちょっとずつ違ったり、めちゃくちゃ違ったりするから、それを開発できるのはすごいと思った。

T14:そうだね。同じじゃないのをたくさんいろんな種類でつくって、これって同じものをつくって広めるのも大変かもしれないけど、同じじゃなかったらみんなはどう思う？

(C 全:なんかちょっと大変。いろんなやつがあるからおもしろい。)

T15:ああ、おもしろいと思う。じゃあ、ちょっと興味が上がるかもしれないよね。

伝わるっていうのが広がるかもしれないよね。はい、どうぞ。

C10:百種類以上もあって全部同じじゃないけどいろんなバラがあってそれをつくったのがすごい。

T16:このいろんなバラがあって、もしかしたら込めたい思いもちがうかもしれないね。はい、どうぞ。

C11:バラを開発するって言ってたけど、バラを研究したりするのがすごいと思った。

T17:そうだね、研究には時間が、こんないっぱいつくってことは、時間もかかっているね。こんなたくさん時間をかけるほど思いが強いんだね。さあ、C12さん、ここまでにしよかな。どうぞ。

C12:ええっと。食べ物よりも植物の種を買って、それからバラを育てることにつながって笑顔が生まれたから、もし食べ物を買ってたとしても、食べ物を買うよりもアサガオの種を買ったことがバラを育てることにつながったから、バラを育てている方が、アサガオの種を買っている方が笑顔が増えたと思った。

T18:ああそうだね。これがきっかけだったもんね。おじいさんに教えてもらったこととか、自分で買ったことが笑顔につながって、もっとたくさんのバラをつくることになったもんね。さあ、こんなお話は、実は、ここにみんなも書いてあるけど、巢山ひろみさんっていう人が作っています。実は、今日、来てもらっています。先生も田頭さんにも聞いたけど、こんなすてきなお話になったから、みんながこんなにたくさん考えて、平和のことももっと知りたいなとか、バラってどんなのだろうという



のが分かったよね。何か、巢山さんに聞いてみたいことがありますか。

C13: 何でバラの本をつくったんですか。

作者: 田頭さんのお話をうかがって、みんなからも意見が出たように怖いこととかみんなが見るのがつらくなるようなことではなくって、きれいなバラで平和をつたえたいという気持ちを知って、わたしもそうだなと思って、いいお話だなと思ってみんなにちゃんと伝えたいと思って書きました。

T19: 田頭さんはバラで伝えて、巢山さんは本で伝える。そしたら、もっといっぱい広がるよ。はい。

C14: ええっと、この話をどこで、どうやって聞いたんですか。

作者: わたしは、このビデオで見た田頭さんの息子さんのところに行きました。広島バラ園というところで、広島バラ園ではバラをいっぱい育てているところがあって数蔵さんは亡くなってしまったんですけど、息子さんが受け継いで今もあります。そこに聞きにいきました。

T20: さあ、あつという間に時間になりましたので、感想を書いてみてください。

5 学びの様相と分析

(1) 学習集団の学びの様相と分析

本時の学習では、学習集団の学びの様相を捉えるために、感想と授業の終わりに書いた振り返り記述（授業を受けた28名の児童）を、KHCoderにかけ、テキストマイニングを行った。（図1、図2）

学習集団の学びの様相について、図1と図2を分析する。図1の朗読後の感想では、「バラ」「思う」「伝える」という言葉のつながりと物語の様々な場面の内容の言葉が点在しながらつながっている。それに比べて、図2の振り返り記述では、「バラ」「思う」「伝える」という言葉を中心にしながら、それらに加え、

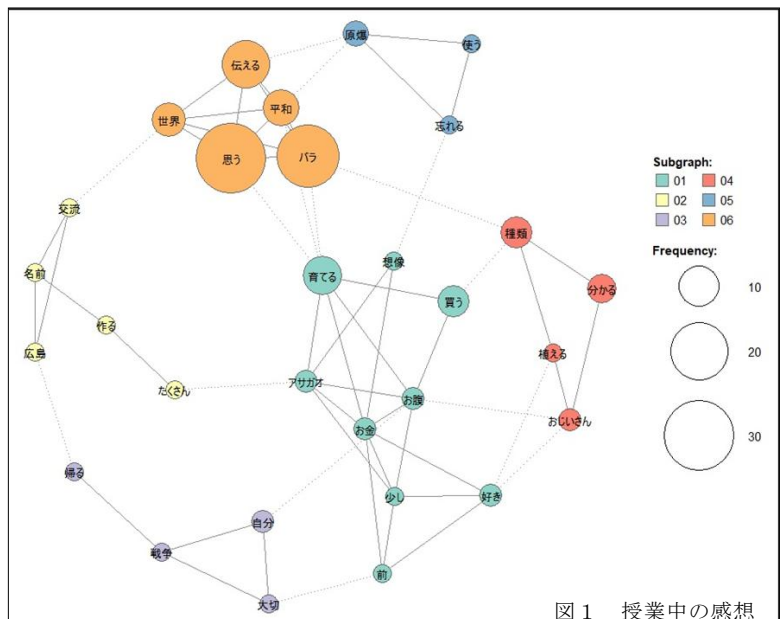


図1 授業中の感想

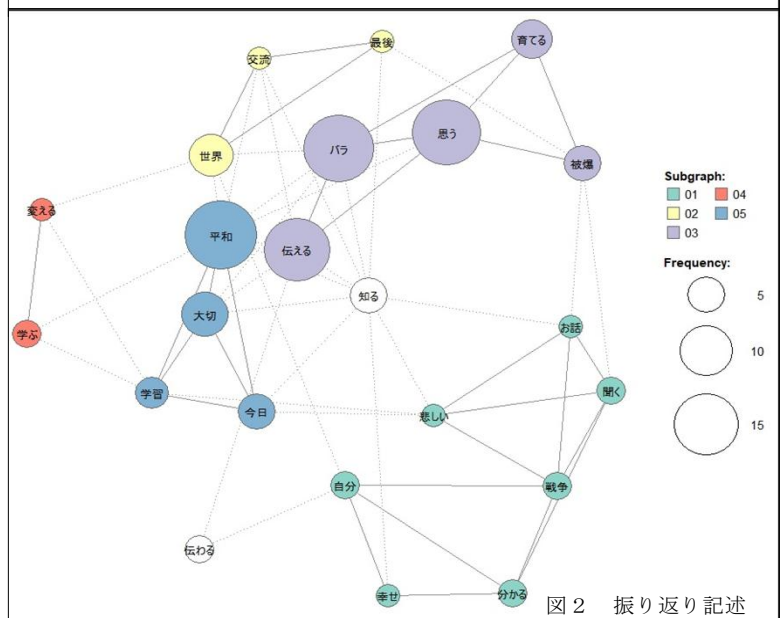


図2 振り返り記述

「平和」「大切」「今日」「学習」という言葉が大きく出現している。また動詞に着目すると「学ぶ」「分かる」「知る」「伝わる」「変える」という言葉が出現していることから、本時の学習活動の対話を通して、物語の読みから平和に対する学びへと概念化されていったと言える。

(2) 抽出児童の学びの様相と分析

本時の学習で多様な他者による多様な語りと出会った子どもたちは、自己や多様な他者との対話によって自己の読みを構築した。そして、自己の考えを明確にしていった。本時の授業では、朗読を聞いた後に感想を書き、授業の終わりに振り返りを書き、次時の学習で、作者に対して手紙を書くことで自己を語る活動を行った。さらには、総合学習で、寄贈されたバラの植木から枝を切り、さし木をする活動を通してバラを育てた田頭数蔵氏を想像するとともに、バラづくりの後継者である田頭恵氏に対して手紙を書くことで自己を語る活動を行った。

本時の授業で自分の考えを伝え、対話を生かした読みを構築し、対象に対して思いや考えを書くという表現で自己を語った児童2名と、授業中には発言がなかったが対話により自己の語ることにつながった児童1名の事例を紹介する。

① 本時の授業時の感想と振り返り記述

	学習時の感想	振り返り記述
R 児 [C1]	かずぞうさんがげんばくにくたれてその後、きん所のおじいさんからもらった1りんのバラで平和を伝えようとしたのがすごいと思いました。	人にこわくなく平和を伝えることがぼくは他の人に一番伝わると思うから、自分もこわくなく平和を伝えられることを見つけていきたい。
K 児 [C12]	かずぞうさんが悲さんな思いをした中でバラで世界に伝えようとしているのがとてもすごいと思った。夢をがんばってかなえていてすごいと思った。	こわいことやきびしいことで平和を伝えるのではなく、バラで伝えると世界と交流できたことがとてもすごかった。かずぞうさんが夢をかなえられて、とてもうれしいきもちになった。これからも幸せになってほしい。
N 児	広島でおきた事をわすれないためにバラに名前をつけて世界の人と交流できるのがすごいと思った。きびしくこわいけいけんをバラで伝えている。	平和の大切さをしりました。かずぞうさんがもらった1りんの花(バラ)でこんなにもすてきなことがおもいつくんだ。みんなを幸せにできるとしりました。平和を伝えられるバラ、やさしく平和を伝えられるバラ、すごいと思いました。

② 次時の授業で「The Hiroshima Peace Rose」の作者に書いた手紙

R 児 [C1]	木曜日はありがとうございました。本当にかくくだったげんばくを、もうみんなに二度とたいけんさせないためにきれいでいいにおいのするバラで伝えようと、こわくなく伝えようとするかずぞうさんの気持ちを表すとてもいい本でした。ぼくもそれを聞いたらぜったいになにかでみんなに伝えようと思います。「The Hiroshima Peace Rose」ともいいだいめいです。この本を読めてよかったです。
K 児 [C12]	先日は、「The Hiroshima Peace Rose」の朗読会と作った時の事を教えてくださり、とてもありがとうございました。わたしは、かずぞうさんがどのようなつらい思い、それから人々の笑顔をとりもどせたのがよく分かりました。そして、一生けん命バラを育てたことがよく知れました。すごくいい本で、バラと世界が交流できるような本でした。他の本も読みます。ありがとうございました。

N 児	先日はお話をきいてくださり、ありがとうございました。巢山さんが書かれた本のろうどくを聞いて、「バラ」1本でこんなに平和の大切さを知れるんだと思いました。また、「こわいやつらい」という言葉を使わずに戦争はしてはいけないということを伝えられるバラはいいなと思いました。巢山さんの他の本も読んでみようと思います。
-----	---

③ さし木体験後にバラの育て方を教えてくれた田頭恵氏書いた手紙

R 児 [C1]	先日はバラをくださりありがとうございました。巢山ひろみさんが書いた「The Hiroshima Peace Rose」でかずぞうさんがげんばくで苦しい目にあってしまったことをもう二度と他の子どもたちが苦しい目にあってほしくないという思いをバラで、かなしくなく、こわくなく伝えることのそうぞう力とたくさんのバラを作れる、そのあきらめない心がとてもすごいなと思いました。それをつなぐめぐむさんもがんばってください。
K 児 [C12]	先日は、バラを育てるためのものをいろいろくださり、ありがとうございました。恵さんが言ったことなどを、3年生全員で見ました。(動画で)3月12日にみんなでばらの土や赤玉土を入れました。(ポットに)協力して育てたいなと思いました。バラの名前はかわいいし、写真を見るともっとワクワクしてきました。がんばって育てます。本当にありがとうございました。
N 児	バラをくださり、ありがとうございました。私は、3/12(木)にさし木しました。1つ1つの作業をこつこつとやるのはとても大変だったけど、とても楽しかったです。田頭さんの平和の思いがこもったバラを大切に育てます。本当にありがとうございました。

④ 抽出児童の分析

R 児は、授業の発言で「バラで平和を伝える想像力」を価値づけていたが、振り返り記述では、それに対話の学びを生かし、「自分もこわくなく平和を伝えられることを見つけていきたい」という思いを語った。さらには、作者に対して本に表現したことを評価し、本を読むことの自己の価値を認識した。また、後継者に対して数蔵氏の行動の価値を語るとともに、継承する恵氏に対する敬意を表した。

K 児は、授業の発言の中で、アサガオやバラという食べ物ではない植物に目を向け、その行動が笑顔につながった価値について語り、振り返り記述では数蔵氏の生き方に「夢」を見出した。作者に対する手紙では、数蔵氏だけでなくそれを見る人々の笑顔にも触れ、バラと世界のつながりを認識したことを語った。後継者に対しては、数蔵氏がバラを育てたことを自分も追体験し、心を動かされている様子を語った。

N 児は、全体交流での発言はなかったが、交流時に友達の発言をよく聞いて反応したり、グループ交流で友達と感想を伝え合ったりしていた。授業中の感想では、友達の発言にあったバラで「世界の人と交流」することや「きびしくこわいけいけんをバラで伝える」という感想に大きく影響を受け、振り返り記述では、それを「やさしく平和を伝えられるバラ、すごいと思いました」と価値づけている。それを作者に対してもバラで平和を伝えることの意味を理解し、自分の評価を語っている。後継者にたいしても「平和の思いがこもったバラを大切に育てます」と自己の意志を語っている。

6 考察

本時の学習では、朗読を中心にしながら、多様な他者によって語られた田頭数蔵氏のバラによって平和を伝えるという物語について感想を交流するという対話を通して、数蔵氏のバラに込めた思いや平和に対する思いを伝えたいという気持ちに共感し、価

値づけていった様子が見られた。これらの様子は、それぞれの感想から対話が生まれ、読みが深まっていく中で、平和に対する思いや考えが概念化して自己の語りとして表出したと考える。

このように、学習集団の学びの様相と分析、抽出児童の学びの様相と分析のいずれを見ても、多様な語りと対話によって、自己の読みが深まり、対象に対して自己の思いや考えを語ることに繋がったことが分かる。この自己の思いや考えは、少しずつ自分がしたいことを見つめたり、自分にできることを考えたりすることであったことから、自分の新しい一歩を踏み出そうとする初期の「自己の平和観」であると考ええる。

7 おわりに

本研究では、多様な語りと対話を仕組むことで、学習者の読みを深め、その読みを起点として、自己を語ることに向かうための授業を構想し、検証した。第3学年という発達段階において、自己を語る際にヒューマンライブラリーの手法で多様な語りの相手が明確にいることや、学習者が物語の人物と同様の追体験をする中で心が動かされたことは、自己を語りやすくすることができたと考える。このことにより、今回の実践では、多様な他者の語りと対話によって、それぞれの学習者の読みが互いに影響しながらそれぞれの読みを深めることができ、初期の平和観である自己を語ることに繋がった。それは、学習者が、「The Hiroshima Peace Rose」の朗読を中心にしながら、田頭数蔵氏の生き方や思いに触れることで、自己と向き合いながら自分はどうか、どうありたいかということ深く考え、「自己の平和観」をもつことになったからだと言える。このことは、この朗読物語の力強さと多様な語りが支えとなり、読み手の心が揺れ動かされたことと対話による読みの深まりが自己の語りに向かう原動力となったと考える。さらには、物語の人物の追体験により人物の思いが学習者の実感を伴う理解につながったことは、自己の中にある思いを自己の外の世界に向かって行動したいと願う気持ちを引き出したと考える。このような自己の思いや考えを表現することは、自己を語ることであり、自分にできることは何かと考えながら行動しようとすることは「自己の平和観」を表現する姿であると考ええる。

このように、本研究では、第3学年において「The Hiroshima Peace Rose」の朗読による授業実践を中心にしながら多様な語りと対話による読みで自己を語る授業についてアプローチをした。今後も、本研究を生かし、自己を語り、〈世界〉に向かうような授業を構想していきたい。

【参考引用文献】

- 坪井健／横田雅弘／工藤和弘（編著）「ヒューマンライブラリー—多様性を育む『人を貸し出す図書館』の実践と研究」（2018）、明石書店
- 坪井健「ヒューマンライブラリーへの招待—生きた『本』の語りがココロのバリアを溶かす—」（2020）、明石書店
- 巢山ひろみ「The Hiroshima Peace Rose」（2026）※本研究のための書き下し